



# 福が満開 おもてなし隊 活動紹介

平成27年4月～6月に大型観光キャンペーン「ふくしま destinations キャンペーン (DC)」が開催されます。福島を訪れた方々を笑顔でおもてなし、DCを盛り上げるために活動する皆さんをご紹介します。

## おもてなし処 こおりおんくら 桑折御蔵



明治17年頃に建てられたおもむきある蔵を活用。アンテナショップとして、県内外に桑折町を広くPR中。温かく細やかなおもてなしを心がけ、訪れた人々の語らいの場として親しまれている。

左から 理事 川名 静子さん  
副理事長 畠腹 桂子さん  
理事 木村 美智子さん



## 地元ならではの アイデアで 地域活性に貢献

普段から地元女性会などで活躍するスタッフの皆さんが交代で運営。御蔵新聞「風」を定期的に発行して、情報共有に努めたり、つるし雛を作るイベントを行ったりと、桑折町の良さを広く伝える活動を行っています。

## 旬の地場食材を ふんだんに使った料理で 心からのおもてなし

地域の皆さんが気軽に参加できるように今年から地域料理コンテストを開催し、旬のアイデアメニューを発掘しています。「桑折さんちのだんご汁」は人気の一品。毎週土曜日限定で提供しています。



## あなたも今日から 「おもてなし隊」!

### 隊員大募集!



福島の良いところを伝えたい方なら、どなたでもOK!  
あなたも「おもてなし缶バッジ」をつけて、お客さまを「おもてなし」しませんか?

対象 県内に所在する団体・グループ・個人など

問 県庁観光交流課 ☎024(521)7398 福が満開おもてなし隊 検索

## あなたも誌面に 登場してみませんか?

誌面に登場してみたい「おもてなし隊」の方を募集しています。  
皆さんの心のこもったおもてなしと心意気を教えてください。

応募方法 官製はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・活動内容をご記入の上、下の宛先までご応募ください。採用の方には、後日ご連絡の上、撮影にお伺いさせていただきます。

郵送先 〒960-8670 県庁 広報課「福が満開おもてなし隊」係  
お預かりした個人情報は、記事や取材などにのみ使用いたします。



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

手分けしながら  
コットンの種を  
まいていく  
ボランティア



花が落ちて  
残った部分が  
コットンボールに

## ここがスタートライン 大きな挑戦が今始まる

全国からの応援もあり、市内30か所、約3ヘクタールへと栽培規模を拡大しているが、それでも「まだまだスタートラインに立ったところなんです。このプロジェクトの大きな目標は福島から新しい農業と繊維産業を作り出し、地域に雇用を生み出すことなんです」と吉田さんは大きな夢を抱く。

「目的達成には課題もたくさんありますが、自分ができることから動き出すことが、大きなチャレンジへの一歩になると考えています」と力強く語る



ロックコープスのボランティアスタッフ

※ロックコープス(RockCorps):アメリカ発の音楽イベントとボランティアを融合したプロジェクト。福島を中心とした場所で4時間以上のボランティアを行うと、9月6日の福島での音楽イベントのチケットが入手できる。新しいボランティアの形、アジア初の開催は、まさに「ふくしまからはじめよう。」の実践だ。

吉田さん。できることから始めて、大きな夢へ。吉田さんの挑戦は始まったばかりだ。



# ふくしまからはじめよう！新しい農業

## ふくしまオーガニックコットンプロジェクト

# ふくしま はじめ人

File No.01

よしだ えみこ  
吉田 恵美子さん

<プロフィール>

いわきおてんとSUN企業組合代表理事とNPO法人ザ・ピープル理事長を兼務。組合では市民自らが市民のために行う地域づくりを実践し、復興に向けて多方面から取り組んでいる。

問 いわきおてんとSUN企業組合  
☎0246(92)3220

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 検索



コットン栽培に励むいわき市立大野第一小学校の皆さん

## コットンがつむぐ人の輪

「震災後、どうか福島を復興させたいと考えていた時、首都圏で熱心に活動しているNPO法人の皆さんが現状を真剣に聞いてくださいました。その中で、綿花の栽培が農業の再生にひとつの道筋を示せるのではないかと提案を受け、福島から新しい農業を始めようと思ったのです」と話すのは、いわきおてんとSUN企業組合代表理事の吉田恵美子さんだ。

平成24年に吉田さんたちはふくしまオーガニックコットンプロジェクトを始めた。塩害に強い綿を有機栽培で育て、収穫、製品化するという一連の取り組みで、首都圏から延べ6,000人ものボランティアが訪れ、今ではいわき市内の小中学校の約700人が栽培体験を通して参加。「福島のために、

何か少しでも力になりたい」という思いで県内外から多くのボランティアが集まっている。また、ロックコープス(RockCorps※)にも参加しており、休日にもかかわらず遠方からボランティアアスタップがかけつけている。

「農業をやめようかと言っていた農家さんの中には、ボランティアの力で農地が再生されていく様子を見て、『もう一度頑張ってみよう!』と言ってくださった方もいました。未来に向かって進もうとされる農家さんの前向きな姿が、本当にうれしかったですね」ボランティアの方々は農家の皆さんの熱い想いを呼び起こしてくれる重要な存在となっている。

## 福島から全国に広がる 新しい支援の形

さらに、栽培された綿花を使った製品から新たな広がりを生み出す活動も始めている。

「仮設住宅にお住まいの方や、福祉施設の方々が手仕事で『コットンペイプ』を作っています。全国でこの人形を手にした方々が、その種をまいて育て、秋に収穫したコットンを福島に送り返すことで、ふくしまの復興を応援し続ける新しい支援の形が始まっています」



種が綿にくるまれた人形  
コットンペイプ